

コスモス



■コスモスのプロフィール

学名： *Cosmos bipinnatus*

科名：キク科

分類：一年草

原産地：メキシコの高原地帯

■コスモスの品種

●早咲き種

長日下でも開花するように改良されたコスモス。「センセーション」という品種が一般的です。日長に関係なく、種まき後2～3か月で花芽を付けます。この性質を利用して、咲かせたい時期から逆算して種まきをすることもできますし、長期間にわたって花を楽しむこともできます。

●秋咲き種

日が短くなると花芽を付けるタイプです。コスモスはもともと1日の夜の長さが11時間以上にならないと花芽を作らない性質があり、10月以降に開花する性質を持っていることから、あまり早く種まきをしてしまうと草丈ばかりが伸びてしまい、倒れやすくなります。このタイプの種を選ぶ場合は、梅雨明け後の種まきがおすすです。早咲き種が主流ですが、昔ながらの秋の風景、景観を作ることができる秋まき種も人気があります。

■コスモスの育て方

●タネまき

タネから比較的簡単に育てることができます。庭や花壇、プランターに直接タネをバラまきすることもできますし、ポットで苗を育てることもできます。ポットにタネをまく場合は、3～5粒ほどまいて、丈夫に育った苗を、花壇やプランターに定植します。

ポットに育った苗が少ない場合は、間引きをせず、そのまま植え付けても大丈夫です。



●タネまき後の育て方

発芽直後の苗が、ヨトウムシやネキリムシなど土の中にいる害虫の被害を受ける事があります。見つけたら退治しましょう。土が常に湿っている状態では、根の生育が悪くなります。花壇など地面に苗を植える場合は、根付いた後は自然の雨で十分。コンテナの場合は、しっかり乾いてからたっぷり水やりをします。

●育て方のポイント

元々痩せた土地でもよく育つので、肥料をやり過ぎるとかえって茎や葉が軟弱になったり、花の数が少なくなったりします。元肥は少な目に、追肥は不要です。

プランターなどで育てる場合は、小さな苗のうちに摘芯すると脇芽が一斉に伸びて枝が増えます。さらに一か月後に伸びてきた脇枝を摘芯すると、コンパクトに姿良く育てることができます。

